

# 所 信 表 明

令和4年9月

宜野湾市長 松川 正則



議長のお許しを得て、議案の上程説明に先立ち、市長二期目就任のあいさつと、市政に対する私の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜わりたく存じます。

まず、はじめに、長引くコロナ禍において、市民の命と健康を守るため、日夜ご尽力をいただいております医療機関等関係者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様をはじめ、日頃より感染対策等にご協力いただいている飲食業・観光業などの事業者の皆様に深く感謝を申し上げます。

そして、議員の皆様におかれましては、去る9月11日に行われました市議会議員選挙におきまして、多くの市民の皆様の信託を受けられ、ご当選されましたことに対し、心よりお祝いを申し上げます。

同時に行われました市長選挙におきまして、私も市民の負託を得て二期目の当選を果たし、第19代宜野湾市長として、引き続き、市政運営を担わせていただくこととなりました。

市長選挙では、活力と活気に満ちた、豊かで、安心して住み続けられるまち、『やっぱり、宜野湾がいちばん』を掲げ、5つのビジョンとして、「暮らしがいちばん」をはじめ、「健康がいちばん」、「地

域力がいちばん」、「基地のない平和がいちばん」、「夢のある明日がいちばん」を訴えてまいりました。

その結果としまして、市民の皆さまのご支持とご理解のもと、市長という重責を引き続き務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いです。

皆さまからの想いは、これまでの4年間の実績に対する評価と、これからの市政運営に対する様々な期待が込められているものと受け止め、その責任の重さと使命の大きさを実感しております。

私たちを取り巻く環境は、年々、急速に変化しており、中長期的には、少子高齢化の更なる進展による人口減少や、それに伴う地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長し続ける仕組みづくりが求められています。気候変動や自然災害、新たな感染症といった地球規模の課題に対しても対応していく必要があります。また、近年のデジタル化の加速には、戸惑いを感じる方々も多くいらっしゃることは存じますが、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進・充実は、IT技術を活用することで、人々の生活をより良いものへと変革させる取り組みでございます。したがって、自治体 DX(デジタル・トランスフォーメーション)関連施策の導入により、

その対応分野を広げながら、行政サービスの向上につなげていく  
必要がございます。

これからの「まちづくり」は、これまでのような右肩上がりの成長  
や発展のみを前提とするのではなく、各取り組みを進めるにあた  
っては、SDGsの理念である「持続可能」・「誰一人取り残さない」・  
「パートナーシップ」をまちづくりの根本に見据えながら、誰もが日  
常生活における安全・安心や幸せ、豊かさを実感できるものでな  
ければならないと考えております。

今後の4年間につきましては、これまで取り組んでまいりました  
事業をはじめ、さらに市民が笑顔で幸せを感じることができる取り  
組みを推し進め、すべての市民が「住んで良かった」「宜野湾がい  
ちばん」と感じてもらえるようなまちづくりに向け、10万人都市のリ  
ーダーとして、全身全霊を傾け市政運営に取り組んでいく覚悟で  
ございます。

それでは、私が市長選挙で公約としてお示した「宜野湾がい  
ちばん！」と市民の皆さまが実感できるために取り組む5つのビジ  
ョンについて、申し上げます。

はじめに、「暮らしがいちばん 力強い宜野湾の経済政策の実

現」でございます。

経済に関連する基本政策につきましては、先にも触れましたが、今もなおオミクロン株による新型コロナウイルス感染が続いている状況でございます。

これまで、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を頂きながら新型コロナウイルス感染対策事業を行ってきたところでありますが、今後も、同感染症で疲弊した経済の立て直しを図るため、AI(人工知能)や、RPA(システムによる業務を自動化)等、ITの活用により、非対面型ビジネスを奨励し、多少の外的要因が加わっても動じない柔軟な経済の仕組みづくりを支援していくとともに、地元優先発注による各種公共工事の実施、誰もが起業しやすい環境づくりを推進してまいります。

また、企業誘致等により、若者に働く場を創設し、市内就労人口を増加させ、企業等の正規雇用の促進を図り、市民所得を引き上げます。

商工会との連携による中小、小規模事業者への経営相談を実施し、販路拡大、製品開発等への支援を拡充し、産業支援センターの設置に取り組んでまいります。

高度情報通信機能を備えた、情報通信施設の建設に取り組みます。

西普天間住宅地区に整備される琉大病院駐車場を市民等も利用できるように覚書を締結いたしました。同地区が発展し、更に駐車場の需要が高まる際には、市民駐車場の整備を検討してまいります。また、店舗リフォーム補助制度を拡張し、空き店舗対策事業の充実と商店街の活性化を図ってまいります。

大山田いも栽培地域の保全・振興につきましても、引き続き推進してまいります。

続きまして、医療、福祉、教育に関する政策の医療分野でございます。

現在、中学生までの通院費及び入院費についても、現物給付の対象を18歳まで引き上げ、重点施策として完全無料化を目指します。

また、救急体制を強化し、市民の生命を守ります。

福祉分野では火葬場の建設及び他市町村との協定により、市民負担を軽減することを重点施策とします。また、公営墓地の建設に取り組みます。

子どもの貧困対策に関しましては、学習支援、生活支援等をと  
おして、取り組みを強化、拡充し、ヤングケアラー問題についても  
真摯に向き合い、実態把握に努め、個別事案に対応してまいりま  
す。

福祉分野における包括的支援体制づくりに取り組みます。

障がい児・障がい者支援の充実に向け、児童発達支援センタ  
ー機能の確保に取り組むとともに、自立促進に繋がるよう障がい  
者就労支援を推進します。また、屋外での移動が困難な障がい  
児・障がい者の社会生活上不可欠な外出・余暇活動等、社会参  
加のための移動支援の充実を図ります。

医療的ケア児の公立保育所への受け入れを継続します。

認可外保育園、放課後児童クラブへの支援拡充及び各小学校  
区への児童センターの設置に取り組みます。

教育分野では、ICT 支援員を引き続き各小中学校に配置し、教  
職員の ICT 活用を円滑に推進し、児童・生徒に一人一台配布済  
みのタブレット端末の活用の充実を含め、GIGAスクール構想の  
充実・強化を図ります。

特別支援教育支援員等の適正配置で、特に支援を要する幼



児・児童・生徒の教育支援の充実を図るとともに、各小中学校へ学習支援員・英語指導助手をはじめ、スクールソーシャルワーカー一等を引き続き配置し、児童・生徒の学力向上に向けた取り組みのほか、心のケア等を実施します。

また、教員の負担軽減のため、児童・生徒の出欠記録、成績表作成などの校務支援システムの充実を図ります。

小学校児童の給食費半額助成を継続いたします。

続きまして、「健康がいちばん 市民の健康を大切にすまちづくり」でございます。

はじめに健康分野でございます。西普天間住宅地区に関しましては、琉球大学医学部及び大学病院と連携し、国の先行モデルとして、沖縄健康医療拠点の形成を図るとともに、健康都市宣言にふさわしい市民の健康増進事業を展開します。

ワクチン接種の推進、無料 PCR 検査等を継続し、新型コロナウイルス感染予防対策を充実・強化します。

引き続き、任意予防接種の無料化に取り組めます。

高齢者の道迷い搜索のため、見守り自動販売機等を増設します。また、民間企業と連携し、一人暮らしの高齢者見守りのため、

Wi-Fi センサーの普及に取り組みます。

介護予防教室への送迎サービスとして、移動支援を継続して実施し、健康体操の普及、生きがいづくりの支援、デイサービスの充実強化等で高齢者のフレイル対策を強力に推進します。

シルバーパスポート加盟店の増加に取り組みます。

また、環境分野におきましては、電気自動車の導入、太陽光発電設置補助制度の拡充、LED 照明器具の普及、自動車メーカーとのタイアップによる水素燃料バスの実証実験等、脱炭素社会を目指し、カーボンゼロ政策を推進します。また、公共交通機関の水素燃料バスへの置き換えを働きかけてまいります。

PFOS 等有機フッ素化合物を含む湧水群のうち、市民が水と触れ合う公園、せせらぎ等へ、除去装置を設置し、市民の不安解消に努めます。

スポーツ分野におきましては、横浜 DeNA ベイスターズなどのスポーツキャンプ地としての取り組みを推進するとともに、また、来年開催される FIBA ワールドカップへの支援等、スポーツの振興を推進します。

引き続き、市、県代表派遣費補助の充実強化を図ります。

スケートボード場等の建設を推進するため、現在、「いこいの市民パーク」内に設置してあるスケートボード場のほか普天間飛行場内の市民広場や、西普天間住宅地区、海浜公園等に同様の施設の建設に取り組んでまいります。

続きまして、「地域力がいちばん 市民が主役、市民参加のまちづくり」でございます。

重点施策として、交通渋滞緩和政策を強力に推進します。

真栄原から大謝名までの渋滞の激しい県道34号へ、右折帯を増設するなど渋滞緩和策を県に強く要請します。

真志喜から喜友名へ抜ける県道の建設推進を図ります。

市道宜野湾11号と国道330号線を結ぶはしご状の市道整備に取り組めます。

保育園等付近道路へのキッズゾーン設置に取り組めます。

各公共施設及び地区公民館へのWi-Fi環境の整備に取り組む、自治会、青年会、婦人会、老人会等の地域組織活性化を図り、市民力を高め、市民が主役のまちづくりを実践するとともに、市政討論会等を開催し、市民の声を市政に反映することに取り組めます。

また、大山地区等の区画整理事業への地権者等の参加によるまちづくりを積極的に推進します。

続きまして、「基地のない平和がいちばん 基地の無い平和なまちを目指す」でございます。

まちなど真ん中にある普天間飛行場は、戦後 75 年以上もの長期間、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因となっております。

そのため私としましては、最重要政策に位置付け、普天間飛行場の固定化を許さず、その危険性を除去するため、基地の運用停止及び一日も早い閉鎖、返還並びに基地負担軽減の実現に向けた取り組みを強力に推進します。これに加えて普天間飛行場の移設先の進捗状況に合わせ、常駐している航空機を段階的に移駐させることを要請してまいります。

基地のない平和なまちを目指し、普天間飛行場の返還時期の明確化を日米両政府に強く求め、返還までの道筋をしっかりとつけることができるよう取り組んでまいります。

航空機騒音に対する軽減策を日米両政府に強く求め、市民生

活を守るため、返還までの間の市民の基地負担軽減を目に見える形で取り組みます。また、米軍基地内外の環境調査実施に向けた取り組みとして、米軍普天間飛行場から公共下水道へ排出される汚水については、年1回 PFOS 等の水質調査を行い、その結果を市のホームページにて公表し、市民の不安解消に努めます。

普天間飛行場の跡地利用は、地権者等との協働で、脱炭素社会を目指した夢のある跡地利用計画を策定し、普天間飛行場跡地開発等の新たな法整備も含め、国との対話を通して、予算の確保に取り組みます。

インダストリアル・コリドー地区については、早期返還を実現し、西普天間住宅地区と連携したまちづくりに取り組んでまいります。

続きまして、「夢のある明日がいちばん 誰もが夢を持ち、自分らしく暮らせるまちづくり」でございます。

重点施策として、海浜公園内の屋外劇場を全面改築し、新たに8千人規模の施設を整備し、あわせて県内著名アーティストの資料館を併設し、ファンの集いの場を創設します。

公共交通機関の空白地域解消のため、オンデマンド型交通機関や、市内循環バス、ミニバス等の運行を目指し、琉球大学と同

大学医学部及び大学病院や各地域を結ぶ取り組みも進めてまいります。

モノレールの延伸及び新交通システムの導入に取り組みます。スーパーシティ構築に向け、自治体 DX(デジタル・トランスフォーメーション)を強力的に推進します。

宜野湾市立体育館や多目的運動場等でのドローンを使ったスポーツ競技大会の開催や、スポーツ競技としての認知度が高まっている「e スポーツ」の普及に取り組みます。

男女共同のまちづくりを目指し、女性の社会進出を促進し、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちづくりを実践します。

捨て犬、捨て猫の殺処分ゼロに向けて取り組みます。

以上、今後4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方と、取り組む姿勢について所信の一端を申し述べました。

私はこれまでの一期4年間につきましても、いつも市民の目線で仕事をしてきました。引き続き、第四次宜野湾市総合計画基本構想で掲げた将来都市像『人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち宜野湾』の達成に向け、「市民の暮らしがいちばん。」「やっぱり、宜野湾がいちばん！」だと実感していただけるよう、市職

員一丸となって、市民の皆様及び市議会と連携して市政運営に全力で取り組んでいくとともに、継続しております様々な課題につきましても、しっかり解決を目指し、またその道筋を探ってまいります。

今後とも、議員各位並びに市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、市長二期目の就任にあたっての所信表明といたします。

令和4年9月30日

宜野湾市長 松川 正則